



ダイズ病害虫の防除を徹底しましょう！



ダイズの莢や子実には病害虫が発生すると、収量や品質の低下を招いて大きな減収になります。

莢を加害する主な害虫はダイズサヤタマバエ、マメシクイガ、シロイチモジマダラメイガ、ヒメサヤムシ類などで、カメムシ類は子実を吸汁加害します。茎葉を加害する害虫としては、生育初～中期に若葉を食害するヒメサヤムシ類、中～後期に多発生すると葉を暴食するハスモンヨトウ、オオタバコガ、マメハンミョウなどが発生します。また、子実に発生する病害としては紫斑病があります。

気象1カ月予報（7月20日発表）によると、気温が高い確率が70%で、降水量の少ない確率が40%と害虫の発生に適した気象条件になると予想されることから、発生には十分な注意が必要です。

これらの病害虫は、主にダイズの開花期から子実肥大期にかけて被害が拡大しますので、この期間における防除を徹底してください。



病害虫の発生をよく観察しましょう！！

開花日をチェックして防除時期を決めましょう！！

開花日？
月 日？

<防除のポイント>

- 1 ダイズ害虫は種類が多く、加害時期や防除適期が複雑で微妙に異なるため、薬剤防除時期の目安として、**開花後10～15日頃より約10日～2週間間隔で3～4回行う**必要があります。前半はサヤタマバエや莢内子実を食害するシロイチモジマダラメイガ等が中心で、中～後半はカメムシ類や食葉性のハスモンヨトウ、オオタバコガが中心となります。なお、カメムシ類やハスモンヨトウ等が多発生した場合は、適宜、追加防除が必要になります。
- 2 **紫斑病は、開花後15～40日間に1～2回の薬剤散布を行い**、その後も降雨が続く場合には追加防除を実施します。
- 3 **ハスモンヨトウやオオタバコガ幼虫は老齢になると薬剤の防除効果が低下するため**、圃場をよく観察し、**若齢期のうちに防除**を行ってください。なお、その際は葉裏や株元にも十分薬液がかかるように散布してください。

第1表 ダイズ主要害虫の主な防除薬剤

(令和5年7月21日現在)

薬剤名	希釈倍率または使用量	収穫前日数/使用回数	対象害虫					分類
			ハスモンヨトウ	シロイチモジマダラメイガ	マメシクイガ	ダイズサヤタマバエ	カメムシ類	
アニキ乳剤	2,000～3,000倍	収穫前日まで/3回以内	○					6
キラップフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで/2回以内					○	2B
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫7日前まで/2回以内				○	○	4A
プレオフロアブル	1,000～2,000倍	収穫7日前まで/2回以内	○		○			un
プレバソフロアブル5	4,000倍	収穫7日前まで/2回以内	○		○			28
アタブロン乳剤	2,000～4,000倍	収穫14日前まで/2回以内	○					15
トレボン乳剤	1,000倍	収穫14日前まで/2回以内	○	○	○	○	○	3A
トレボン粉剤DL	4kg/10a		○	○	○	○	○	
スミチオン乳剤	1,000倍	収穫21日前まで/4回以内		○		○	○	1B
	1,000～1,500倍				○			

注1) 無人航空機または少量散布専用ノズルを装着した乗用型散布機を用いる場合は、それぞれの農業使用基準を遵守して使用してください。

注2) 分類欄には、IRACコードを記載しました。

第2表 ダイズ紫斑病の主な防除薬剤

(令和5年7月21日現在)

薬剤名	希釈倍率または使用量	使用時期 / 使用回数	分類
Zポルドー	500倍	- / -	M1
アミスター20フロアブル ※	2,000～3,000倍	収穫7日前まで/2回以内	11
ファンタジスタ顆粒水和剤 ※	2,000～4,000倍	収穫7日前まで/3回以内	11
ゲッター水和剤	1,000倍	収穫14日前まで/3回以内	1と10

注1) ※印の薬剤系統には、ダイズ紫斑病において薬剤感受性の低下傾向が確認されていますので、連用は避けてください。

注2) 分類欄には、FRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農NewsはJA全農いばらきホームページでもご覧になれます。